



講座が始まる前の計測補助



赤ちゃんが安心する抱き方



読み聞かせのコツを伝える



手作りおもちゃの紹介



グループワークで情報交換



おめでとう訪問を全世帯に

ボランティア団体である母子保健推進員の会員として活動をする母推さんは現在206人。今年で活動18年目です。乳幼児健康診査や各種講座において、親子が安心して参加できるようサポートしたり、子どもを出生した家庭を訪問するおめでとう訪問※をしたりするなど、多岐にわたる活動をしています（※おめでとう訪問は市からの委託事業）。

＼母推さん募集中！ 母推さんとして活動してみませんか！

母推さんとして活動するには、「母子保健推進員養成講座」の受講が必要です。詳しくは本紙23頁。

子育てに寄り添う母推さん

黄色いエプロンを着て、子育てをするパパママを見守る母推さん。気軽に話せる身近な存在として活躍する母推さん活動を紹介します。

トレードマークは黄色いエプロン

乳児と親を対象とした講座「ベビークラス」には、黄色いエプロンを着た母子保健推進員(母推さん)がサポート役として参加しています。会場入り口では、「こんにちは。お母さんが受付する間、赤ちゃんを抱っこしましょうか」と母推さんが笑顔で迎えます。

生後数か月の子を対象とするこの講座。会場に着いたとたんに、ぐずり始める子もいてお母さんは大変です。母推さんは新米お母さんに子どもの抱き方を伝えたり、泣く子をあやしたり

ベビークラス参加者の声



服部愛華さん・美晴ちゃん

子どもを連れての初めての外出で緊張しましたが、会場に入る時から母推さんにサポートしてもらえて安心できました。これまで不安に思っていたことについて、参考になるアドバイスが聞けてよかったです。

して、親子が安心して講座に参加できるようサポートしています。

豊田市の子育てを支える

豊田市で生まれる赤ちゃんは1日平均約10.4人、1年間で約3,800人。「おめでとう訪問」は、母推さんが2人1組で出生のあった家庭一軒一軒に足を運び、お母さんたちの不安を解消する取組です。

「おめでとう訪問が一番のやりがい。はじめは硬い表情で玄関口に出てくれるお母さんが、話を聞いていくうちに笑顔になり、最後はありがとうと見送ってくれると、とてもうれしいです」。そう話してくれる会長の田中さん。中には、「出産後初めて家族以外の人と話した」と言うお母さんや、話を聞くうちに涙を流すお母さんもいるそうです。

豊田市は市外からの転入者が多いのが特徴。頼る人もないお母さんも少なくありません。そんな人にとっても母推さんは身近な存在となっています。

母推さんだからこそ話せる

「気軽に何でも話してもらえようになりたい」。家族ではなく、専門職とも違うボランティアという立場でお母さんたちと接することができる場所は母推さんならではの。誰もが第三者として気軽に話せる特別な存在



会長の田中さんに伺いました。

です。「最近インターネットで子育ての知識が簡単に手に入る一方、赤ちゃんは一人一人個性があるので、知識だけでは難しいこともある」と話す田中さん。インターネットの知識だけでは不安に感じるお母さんが母推さんの生の声を聞くことで安心する場合も多いそうです。

楽しさが原動力

「私は活動を始めて13年目ですが、赤ちゃんと触れ合うのが楽しいので長く続けたい」。会員は設立当時から大幅に増え、現在でも積極的に会員を募集しています。毎年、研修会などを開いてスキルアップにも努めています。「多くの人と接することが自分自身の成長につながる」と話します。

お母さん一人一人と向き合う活動を続けてきた母推さん。すっかり黄色いエプロンも定着し、いてくれるだけで安心する存在に。今後もますます元気に活動を続けます。